秋高同窓会だより

題字は塩田会長

発行者
秋田県立
秋田高等学校同窓会
秋田市手形字中台一番地
TEL 0188(32)9553

印刷所
秋田オフセット
印刷株式会社

平成三年度通常総会

平成三年度の通常総会は八月二十五日(日)アキタニューグランドホテルに百二十名の出席を得て開催され、平成二年度の事業報告決算、平成三年度の事業計画と収支予算、平成五年の創立百二十周年記念事業実行委員会の報告などが全会一致で承認された。

同窓会決算・予算

	平成2年度 決算額	平成3年度 予算額
〈収入の部〉		
入会金	3,281,600	3,313,600
年次会費	1,470,000	1,300,000
役員会費	1,960,000	2,000,000
協賛広告収入	590,000	660,000
基金運用収入	324,798	600,000
雑収入	250,240	200,000
繰越金	1,215,287	1,120,815
合計	9,091,925	9,194,415
〈支出の部〉		
事務費	1,106,899	1,470,000
会議費	1,534,346	19,00,000
事業費	2,703,087	3,200,000
基金	2,000,000	2,000,000
雑費	253,503	170,000
予備費	373,275	454,415
合計	7,971,110	9,194,415
繰越額	1,120,815	

平成2年度基金会計

〈収入の部〉		〈支出の部〉	
前年度繰越	14,138,901		
繰入金	2,000,000		
利息	50,57		0
合計	16,143,958	基金残高	16,143,958

西木正明氏（直木賞作家）講演

今年の当番幹事は一年次で、41年卒の岡部寛氏が司会・進行に当たり、11年卒の佐藤民治氏の開会の言葉で始まり、校歌斉唱、物故会員に黙禱をささげた。

塩田雄次会長は「幸い今年の秋高は、進学においても東北有数の進学率をあげている。また、夏の野球でも非常に輝かしい戦績をあげている。このような母校の勢を同窓会としても大いに応援してまいりたい。皆で力を合わせて秋高の発展を考えよう」とあいさつ。

続いて、室田弘学校長が「硬式野球部の甲子園での全国大会出場に際しては大変なご支援と暖かい応援を頂き、選手諸君は持てる力を十分発揮できた。また軟式野球部は、奥羽大会で準優勝するなど運動部の活躍が目立った。また、現役生徒の進学率が70パーセントを越え、質的にも非常に高かった。女子生徒が年々増加する傾向にあるが、校章に示された智・徳・勇の教育理念の元に文武両道、自立の校風のためにまい進してまいりたい」とあいさつ、今年春の人事異動で就任した松岡正樹、高橋克二の両教頭を紹介した。

このあと、塩田会長を議長に議事にうつり、平成二年度収支決算、一般会計、基金会計、名簿会計の報告監査報告が行われ、原案通り承認した。

続いて審議・承認された平成三年度事業計画では、同窓会の入会式、同窓会だよりの年三回の発行、名簿関係では、訂正・正誤等の入力などを行う。

知道会（水中・水戸一高同窓会）との交流については、向こうからの呼びかけに応えるなど内容を考えて進めることとなっている。

創立百二十周年実行委員会の説明では、総務委員会が、募金総額一億円を達成できたら国際交流などを含めた奨学研修などを検討したい。募金計画については各年次に割り当て、各年次の代表二名による募金委員会を発足させる計画だとの報告があった。

施設委員会からは「運動部合宿所と同窓会事務局の建設について総務委員会・財政委員会の意見も参考に検討した結果、同窓会館の建設一本に絞ることにした。建設場所は、学校への坂を登りきった左側、研修会館と相対した所だ。総面積は、当初百坪を目標としていたが、土地が狭いこと財政の面なども考慮し、木造二階建、六千万から七千万円の予算としたい。外観などは検討中だが、内容としては、迎賓応接室、小会議室、学校の歴史を刻んだ資料室、同窓会の中心部となる事務室、それに付随したコンピューター室を予定しているなどの説明があった。

財政委員会からは、募金目標一億円に見合う年次別の配分を検討した。百十周年での十万円以上の大口寄付などについても考慮に入れているが、今回は、各個人毎に大口寄付を依頼しないで年次で負担して頂く。年次別の目標額の合計が、一億七百五十万となっているが、これは募金委員会が発足すれば若干の調整があるとの説明があった。

このあと、34年卒の作家西木正明氏が「裏面史への招待」と題して講演を行った。

講演の内容は、氏がライフワークとしている、「歴史の波の中で、もみくちゃになりながら人生を送った人々」に、小説を通して光をあてることに関してなどであった。

デビュー作ともいえる『オホーツク諜報船』では、学生時代の体験から、レポ船、北方領土のことを話し、『スネークヘッド』では、香港での元紅衛兵の女から聞いた、内蒙古人民党事件、阿片のこと、『ルーズベルトの刺客』では大統領とユダヤ人国家建設など、注目に値する話題ばかりであった。

茨城秋高会発足

平成3年9月14日
水戸京成ホテル

挨拶する松本会長

昨年6月の県立水戸一高の同窓会・知道会との姉妹提携が縁で、同年11月18日の秋田高校同窓会茨城支部結成準備の世話人会が開かれ、その後数回の協議をへて発足にこぎつけた。翌15日の茨城新聞には〝学友たちが一堂に〟〝秋田高同窓会が発足〟〝本県の各界で活躍する、企業役員・研究者ら約百人が出席…〟と大きな見出しで報道された。

設立総会は戸島均世話人（S29）の進行で始まり、経過説明は、柴田久志世話人（S34）が担当・会の名称は、同窓会支部の意味を持つこととしても、独自性を持たせる意味で、〝茨城秋高会〟とする。会則も6条のごく簡単なものにする。役員として戦前卒をすべて顧問・今回は出席者4名・世話人は選任・また、戦後卒業生とする等々が了承され、定例会は、毎年9月の第1土曜日とすることになった。この後設立記念祝賀会に移り意義深い会となった。

進行は土肥養一世話人（S26）初代会長に選ばれた松本善也氏（S19）のあいさつ・つづいて秋田高校同窓会副会長　小玉得太郎氏（S18）・水戸一高知道会副会長　山口清隆氏・秋田高校同窓会東京支部長・朝倉俊夫氏（S26）、乾杯は大先輩の菊池壬子郎顧問（S5）、また俗称「たむてつさん」こと田村鉄男顧問（S17）よりスピーチ、なごやかな祝賀会となり、中ジメは片岡保夫世話人（S26）の音頭、それぞれ二次会、三次会へと散会、来賓として、外に秋高同窓会より、山谷浩二幹事（S20）伊藤守一事務局長（S21）水戸知道会会長泉武氏、姉妹提携委員長山形晴一氏同じく副委員長外岡仁氏等が出席す。

山谷浩二記

三〇周年記念事業 校史資料館建設 募金目標一億円

◎常任理事会・理事会

平成三年度第一回常任理事会及び理事会は、八月三日（土）、午後四時から第一会館本館に、約九十名の出席を得て開催された。

会長の挨拶、学校長の近況報告を含めての挨拶に続き、会務・事業報告、常置委員会報告、百二十周年記念事業実行委員会報告等がなされた。

特に、百二十周年実行委員会の報告では、総事業費は一億円とし、主たる事業である施設整備事業として、学校の歴史を伝えるにふさわしい資料の収集・保存と、卒業生の刊行物や記念誌の収集、それらを供覧できる展示室や同窓会事務局も併設する（仮称）校史資料館を建設することが報告された。木造二階建約300㎡の建物で、建設費は約七千万円である。

この募金方法としては、各年次別に募金委員を委嘱して年次別にまとめていただくこととした。

以上の報告事項が全員一致で承認された。

続いて議事に移り、決算（一般会計、基金、名簿、百二十周年）、監査報告がなされ承認された。平成三年度事業計画並びに収支予算も原案通り承認された。

さらに総会日程も八月二十五日(日)午後二時、ニューグランドホテル、講演者西木正明（三十四卒）に決定した。

また、百二十周年の募金活動として、各年次の募金委員と財政委員とで募金幹事会を設置して推進することが承認された。

天上天下

▼「今は夢、今に正夢宝くじ」と云うことで、第一勧業銀行宝くじ部の調査によると、昨年度、秋田県内で百万円以上の宝くじ当せん金を受け取った人は、三百六人。▼この人たちを対象にしたアンケート調査では宝くじを買った理由は、夢を持ちたいからが七四パーセント、金が欲しくて一発勝負と云う人は六パーセントとなっている▼宝くじはもちろん買わなくては当たらないわけだから、どのくらい買ったかと云うと、ジャンボのみと云う人を含めて年数回が四十七パーセント次が毎回の二十パーセントだが、初めてと云う人も七パーセントある▼当せん金を受け取った人の六十二パーセントは、五年以上宝くじを買い続けており、一部のラッキーな人を除くとそれなりに正夢とする努力をしていると云うことになるのだろうか▼この調査では当せん者に多いイニシャル、買い求める場所などの報告もあり、夢を持ちたいと云いながら正夢となることを願っているのがよくわかる▼夢ー講談社の日本語大辞典によると①眠っている間に、さまざまのできごとを実際におこっているかのように見聞きしたり感じたりする現象②はかないこと③たやすく実現できない願い④理想として予想されるもの⑤現実から離れた甘い考えとある▼夢を夢として理解して対応できるうちはよいが、夢を追うだけになってはどうにもならない。夢は将来展望ではないからだ▼今年も残すところわずかとなった。節目となる新しい年を迎えたとき、一年の計、百年の計を、夢としてではなく目標をしっかりと見定めた実現性の強い計としたいものだ。

校歌制定の経緯

学校長　室田　弘

――はじめに――

平成三年の九月二十六日のことでした。

私はかねてより一度はお伺いをして直接お話を聞かせていただければと思っていた五城目町在住の今村久吉郎さんのお宅にお邪魔する機会を得ることができました。この日同行の労をとってくださったのは、これも五城目町に住んでおられる越後市朗氏（本校二十年卒）であります。ところで、今村さんはすでに九十歳――、まことに老翁の域に達している御高齢でありますが、元気矍鑠（かくしゃく）、しかもその記憶力の確かさには、感動させられました。私が是非とも今村さんにお目にかかりたかったというのは、氏が、本校校歌の制定に当たって、その作詞の依頼を直接土井晩翠氏になされた方であるということを本校校史の記述によって知っていたからであります。

当日、聞かせていただいた貴重なお話は、このあとで紹介いたしますが、その前に今村さんの御経歴についても簡単に触れておくことにします。今村さんが旧制の秋田中学を卒業されたのは大正十年――。その後、旧制二高（仙台）に入学、さらに京都大学医学部へと進まれ、京都病院勤務を経て、京都市衛生局長などを歴任、御退職後は郷里の五城目町に帰られ、ここで八十歳過ぎまで保健所長として御活躍。現在、九十翁の域にあって悠々自適の生活を送っておられる方であります。

――「校歌制定」にゆかりの深かった人々――

始めに、本校創立百周年の記念誌の中から校歌制定にまつわる記述（「大正編」一九六頁）の一部を原文のまま引用することから話を進めます。

以前から校歌制定の必要が在校生の間で叫ばれていたが、創立五十年を目前にした大正十一年七月十五日、秋田中学校校歌は、土井晩翠の作詞、梁田貞作曲によって制定され、同年九月一日、創立五十年記念日に発表された。

作詞者選定にあたって、職員間で相馬御風、土井晩翠などいろいろな人物が挙げられたが、古村精一郎（現同窓会長）の二高（現東北大学）時代の恩師土井晩翠にお願いすることになった。その当時の二高在学中の今村久吉郎（京都衛生局長）が連絡の衝にあたったといわれる。

この文章の中に出てくる古村精一郎氏については、私達にとって同窓の大先輩であるばかりでなく、氏を秋田中学時代での恩師と仰いで、その薫陶を受けられた方もたくさんおられますから、私から敢えて御紹介するには及ばないようにも思いますが、ここでは若い同窓の方々のためにその概略だけを述べさせていただきます。

古村先生は、明治四十三年旧制秋田中学校を卒業後、同じく旧制の二高（仙台）に進まれ、ここで英文学教授として活躍中の土井晩翠氏の講義を受けられ、氏に心酔されたということであります。その後、大正五年から昭和九年までは母校である秋田中学校の教諭・教頭として長年にわたって教鞭をとられておりますが、本校創立六十周年記念の「校友会歌」の作詞者としてばかりでなく、同窓会の第二代会長としても長い間母校のために心を尽くされた方として同窓諸氏の間では忘れることのできない先生のお一人であります。ところで、古村先生が二高時代に教えを受けた土井晩翠氏は「荒城の月」の作詩など、詩人として、また、英文学者としてあまりに有名でありますが、明治四年に仙台市に生まれ、二高から東大英文学科、さらに大学院へと進み、卒業後は母校である二高の教授・東北大学の講師として活躍されました。戦後、仙台市名誉市民に推挙され、また、詩人としては日本ではじめての文化勲章を授与された方ということでもよく知られております。

――今村翁のお話――

今村さんのお話によりますと、今村氏が二高に入学した春、秋中時代の恩師である古村先生から、秋田中学校の「校歌」の歌詞を土井晩翠氏につくってもらうよう依頼されたとのことであります。そこで秋中卒業の二高の学生であった今村氏、元の能代市長柳谷清三郎氏など四名の学生で、夏休み前のある日、二高教授であった晩翠氏の自宅を訪ね、直接校歌の作詞をお願いしたのであります。

晩翠氏は、学生である今村さんたちの突然の訪問にもかかわらず、この依頼を快く引き受けられ、秋田市周辺の景観、高い山は何か、大きい川は何か、また、郷土の偉人は誰かなどと尋ねられ、その時に答えた「太平山」「雄物川」、「平田篤胤」「佐藤信淵」などという言葉は、そのまま歌詞の中採り入れられることになったのだそうです。

晩翠氏は、この校歌を作るに当たって秋田まで足を運ぶということはなかったようですが、それでも秋田中学が、当時すでに創立五十年の歴史を持つ秋田県を代表する名門校であり、優れた人材を数多く輩出している学校であることは充分に念頭に入れて作詞に当たったように思われたとのことであります。

以上が、本校の校歌ができるまでの概要でありますが、今村さんは、この時お訪ねした晩翠氏の自宅の様子や、今村さん達をもてなしてくれた独特な雰囲気が今でも忘れられないと言って懐かしがっておられました。晩翠氏の御自宅は、いわゆる純和風の瀟洒なたたずまいで、お部屋の中には当時としては珍しい扇風機などもそなえられ、また、夏の日のおもてなしということもあったのでしょうが、グラスにそそがれた透明な砂糖水に氷片を浮かべたものをご馳走になったということであります。まだ大正の十年代、砂糖水でさえお洒落なお飲み物に思えた上に、一般の家庭でどのようにして氷を貯えておられるのか、今村さん達学生は、不思議な気分を味わいながら晩翠先生のお宅をあとにされたとのことでした。

――おわりに――

この度、今村さんからお伺いすることのできた校歌ができるまでの貴重な逸話を、このようなつたない文章ではありますが、何とかまとめ挙げることができました。今村翁には心から感謝申し上げたいと思います。間もなく秋田高校も創立百二十周年を迎えることになりますが、私達は同窓のきずなを「校友会歌」で確かめ合い、「校歌」の一節を口ずさむことで、秋田中学・秋田高校をわが母校と呼ぶことのできる誇りと喜びとを幾たびとなく呼び覚ましてきました。かつての秋田中学に、古村精一郎先生がおられ、その教え子として今村久吉郎氏がおられ、これ、お二人の二高時代の恩師として土井晩翠氏がおられて、秋田高校には誇るに足るべき「校友会歌」と「校歌」が残されました。この僥倖にも心から感謝しながら稿を閉じさせていただきます。

東京支部の昨今

前支部長　金谷　勇

秋田の山の中で育った私は中学を出てすぐ東京の大学に入った百姓育ちであっただけに東京の大先輩の町田忠治、田中隆三先生の立派なお二方にお目にかかった時は心から敬服した。しかも御二方を御紹介下さったのが蒼々たる県人である高堂徳治先輩、田口先輩の御二方であった。それだけ皆様の手前、県のために盡さねばならぬと思ったほどだった。

そのころ一、二年のうち出来た友達も今思うとすぐれた仲間の人達だった、仲の良い友達となるにつれ、私にとって十二分に楽しく大学生活を味わうことが出来た。新宿で酒交す「バー秋田」は大坂志郎先輩の母親の店であった。時折出かけた数人の仲間とはよく議論が交錯することが度々で、終りにジャンケンして決めるやり方のジャンケン倶楽部を造ったことを今でも時折思い出す。

やがて東京に同窓会支部を結成することをきめ、支部長に国鉄の総裁長崎惣之助先生をお迎えし、国鉄の若い部長の橋本錬太郎先輩に参加してもらい、よく文部省の大沼洋夫先輩等と長崎支部長におねだりして国鉄から映画をお借りしたり時折おねだりして支部運営を願ったことも思い出されます。物心両面からいろいろ御世話になった。

同窓会の支部運営中に二度母校の野球部が秋田代表となり、甲子園の全国大会に出場することになり、本部の要望を受けて東京支部も募金に力を入れて協力した。全国大会出場は名誉なことと仲間は誇りとした。

全国大会出場選手五十名、応援が六、七十名その人達の旅費、宿料を同窓会がもつだけに大変でした。試合前の宿泊と十日分の経費負担、試合に負けると翌日お帰り、朝十時半に出発の一行を東京で迎え、東京駅で朝食を出し日劇を見物させて夜の六時頃在京の同窓仲間八十名位が加わって歓迎会、大いに慰労してやり上野駅迄送るのが十時半頃だった。祝賀会に百名位の招待状を出し会員を集めることは大仕事だったが、仲間はよく力を併せてくれて実行出来たことだった。

その三十年間位支部の運営をやりとげたのも今思うと不思議な程でした。よく仲間の協力を得たことが有りがたいことだった。

東京では、土井、佐藤文雄、佐宗金太郎、吉成一郎先輩、加賀谷等一郎、宇佐美、木村元治君達がよく助けてくれたから出来たものだった。最近ここ数年同窓会会報を年三回本部が作成してくれるので助かっているが、その前は県の先輩が新聞を出してくれたのも印象深い。鷲尾よし子先輩の御協力も忘れられないことだったと追憶して感謝している。

就任の抱負・所感

東京支部長　朝倉俊夫

本年五月の東京支部総会において支部長に選出されました。マンモス東京支部の設立は戦後の混乱期の昭和二十二、三年で、初代支部長は元國鉄総裁の長崎惣之助氏と聞いております。又前支部長金谷勇氏は設立当初から東京支部の発展のため盡力され支部長在任期間も三十数年に亘りました。その長年のご功績に対しまして、ここに深甚の敬意を表します。さて東京支部は東京都及び其の近県に居住する卒業生（職員を含む）を会員としており現在会員名簿に登録されている方々は約七百五十名です。しかし東京地区には数千名の同窓会員が居られるはずです。当面は一千名をメドに会員名簿を補充いたしたく考えており、目下各年次の東京地区同期会名簿の提供を依頼中であります。私は故里秋田を離れて三十数年になりますが、秋田県人としての誇りと郷土秋田を愛する気持を忘れておりません。仕事等を通じ数多くの方々と接してまいりましたが、秋田人は人柄、人情の深さ等々日本一と自負しております。母校も二年後は創立百二十周年を迎えます。全國屈指の伝統校東京支部の更なる発展に微力乍ら努力する所存です。

石井直明氏（S20④卒）日本セラミックス協会教育功績賞を受賞

この賞は、セラミックス産業並びに教育の発展に尽力され功績のあった方々を、協会が十年毎に表彰を行っているもので、今回は三回目の記念表彰であります。

このたび、石井直明氏（経法大附高講師）が永年の功績が認められて、晴れの受賞となりました。

慶祝（判明分・敬称略）

藍綬褒章　布袋屋伊作 S20
勲三等瑞宝章　佐々木彰 S10
勲四等瑞宝章　日黒晃治郎 S4
諏訪綱毅 S8
菅原繁雄 S13
勲五等瑞宝章　北潟勝 S9
荒谷武夫 S12
勲六等単光旭日章　加藤芳男 S10
県文化功労者　相沢謙一 S5
辻兵吉 S19

哀悼（判明分・敬称略）

茂木松次郎（T13）孝ヶ崎市3・1
花岡省道（T13）秋田市3・5
神田孝一（T13）西宮市3・6
工藤幸助（T13）神戸市3・6
竹田達郎（S10）秋田市3・6
阿久津正子（S42）仙台市3・7
古田守（S18）秋田市3・7
池田昭吾（S20）秋田市3・7
鎧喜三郎（T12）飯田川町3・7
奈良園一（S9）秋田市3・7
佐藤直樹（S53）秋田市3・7
畠山太郎（S11）八郎潟町3・8
成田耕造（T11）秋田市3・8
中村健一（S11）秋田市3・8
武田基（S6）秋田市3・8
渡辺忠（S37）秋田市3・9
熊谷与四郎（S11）秋田市3・9
菊地糞之助（S5）五城目町3・9
渡辺孝之輔（S7）秋田市3・9
加藤二郎（S38）秋田市3・9
小西松治郎（T13）六郷町3・10
嶋崎工（S59）五城目町3・10

工藤眼科医院
院長
工藤英夫
(S31卒)
能代市松美町
TEL0185(54)5445

秋田銘菓処
世界洋菓子連盟会員
株式会社　勝月
代表取締役
片谷信一
(S31卒)
秋田市保戸野通町
TEL0188(62)3015

(医)明和会大曲中通病院
院長
伊藤圭右衛門
(S31卒)
大曲市栄町
TEL0187(63)2131

好きですアキタ！
(有)赤坂酒店
代表取締役
赤坂光一
(S31卒)
フードセンター新屋店内
TEL0188(28)2240

酒・たばこ
高堂酒店
高堂五郎
(S11卒)
秋田市大町一丁目2－40
電話　0188－62－2169

赤いクスリや薬局
薬剤師
森川雄三
(S11卒)
〒010 秋田市千秋中島町18－4
TEL0188－35－8041

つどい

昭五会の記

秋田気象台始まって以来の、風速五十一・四メートルというすさまじい十九号台風通過の翌々日、九月三十日に我々は千秋会館で、昭五会を開いた。

開会に先立ち、本間幹事が今回の出欠者の便りをまとめ、自ら「ワープロ」を打った「何か一言」が配られた。

今年は、大阪より初参加の佐藤栄司兄と県外よりの常連三氏、それに県在住の十七名を加えた二十一名の参集であった。

午後三時に開会、記念撮影、物故者追悼の後、本間氏より会務その他の報告、つづいて塩田同窓会長より同窓会の近況説明があり、その後各位の現況と所感が、それぞれ語られた。その中で皆から異口同音に、本年の母校野球部の甲子園での大健闘が讃えられた。更に先刻配られた欠席者の消息を話題にしたり、このたびの台風の残した爪跡の大きかったこと、それにつけお互いがこうして参加出来た幸を喜び乍ら、盃を酌み交し合い、話は盡きることなく続いた。

終りは懐かしい校歌、「天上遙かに」を五番まで、殆んど暗誦で歌い上げ、午後五時半、来年も元気で再会することを期して散会した。

出席者は次の通り

（東京）斎藤善次郎、（宮城）鈴木光義、（酒田）三森福治、（大阪）佐藤栄司、（秋田）安倍興、相沢謙一、伊藤彰、伊藤武雄、石井正雄、加藤久三郎、金沢英治、佐藤岩雄、桜田正吉、笹山秀武、塩田雄次、堀井太郎、本間善次郎、松葉重敏、宮崎政一、和賀茂、藤本儀一、

東京昭五会（春の例会）の記

昭五会（昭和五年卒）は秋田では毎年開催されているが、東京でも在京の有志が毎年開催していて今年は四月二十日、春の例会が桜花爛漫の新宿御苑の花見を兼ねて開催された。毎回の世話役は斉藤善次郎・深井正二・国井時雄の各氏。仙台在住の小生は秋田へは毎年、東京は都合のつく限り参加させてもらっている。

御内はソ聯大統領の来苑予定のため（来苑されなかった）塵一つない萌黄の美しい芝生。見事に咲いた八重桜の大木。日本の並木の親といわれる百五十米続くプラタナスの並木。台湾飯等々をバックに記念写真。車で次の会場新宿センタービル地下一階の串ライオン安具楽で会食。午後四時すぎ校歌を斉唱し次の再会を約し解散した。出席者　斉藤善次郎・深井正二・国井時雄・渡部豊治・平川栄三・斉藤直一・小林實・鈴木光義。桜田亮直、菊地壬子郎、清沢吉助の三氏は欠席した。

水戸一高知道会総会に出席して

参与　桜谷吾朗

姉妹提携を結んだ水戸一高知道会が、十月二十七日（日）午後一時より、「サンレィク水戸」で開催された。

ご招待をいただいたので、会長代理として小玉得太郎副会長そのお供をして私も出席した。

出席会員は約一三〇名と盛会で、私たちの他、来賓として水戸一高の奥村義栄校長（組織上は顧問）も出席学校の現況について報告、ついで小玉副会長が挨拶に立ち、まず本校野球部に対するご芳志と、茨城秋高会設立に当ってのご協力に対して謝辞を述べられ、たまたま前日拝見した、茨城新聞創刊百周年記念事業の横山大観名作展にふれ、一時本校に籍を置いた秋田出身の寺崎広業が、大観とともに岡倉天心を中心に日本美術院を設立したことや、瀟湘八景などの話しにもふれ、こんなところにもご縁のあることを述べられた。

型通り議事は進行し、この度は会則の一部改正が上程された。その内容は、会員の年会費（二千円）の納入と、事務局長を会員または母校勤務経験者から会長が任命して置くことの二点である。

年会費については、これまで、卒業時納入金（五千円）は終身会費として扱われていたが、これを入会金として年会費は五年間免除、その後は年会費を納入することに改められたもので、本会より一歩を先んずるものと評価した。

知道会の目玉事業は、創立百十周年を機にして設けられた「在校生志気高揚資金」による在校生の海外派遣である。

今年は三回目で、派遣先はインドネシア（ジャカルタ・ジョグジャカルタ・デンパサール）、期間に夏休み期間中を利用して十三日間、派遣人員は男子生徒八名、女子十名で、総会では代表として女子三名による報告が行われた。学校訪問、ホームステイ、青年海外協力隊との交流など、若者の感覚で捉えた発表は印象的であった。

総会を終り、場を変えて立食形式で懇親会に入り約二時間交歓、最後に一中、水戸一高の校歌を斉唱、秋高と水戸一高のエールを交換して閉会した。

翌日、水戸知道会幹事長外岡 仁氏の好意により、茨城新聞社を訪問、茨城秋高会設立の記事に謝意を表し、今後のご交誼をお願いした。

更に笠間市に案内していただき、笠間稲荷、芸術の村、笠間焼の窯元など見学、たまたま月曜で休館であったが、日動美術館や陶芸家として名をはせた北大路魯山人のアトリエを鎌倉から移築した春風万里花のお庭など拝見できたのは幸いであった。

総会前日午後には、江戸時代の庄屋居宅「山種目照沼家」や国営常陸海浜公園周辺を案内していただくなど、知道会の役員の方々のご配慮、ご厚意に深甚なる謝意を表し報告とする。

第四十九期（昭和十一年度）秋田中学入学六十周年記念の催し。

昭和六年当時東根小屋町にあった旧校舎に入学して、ちょうど六十年の記念すべき年度を迎えた。偶々秋高同窓会の催しの当番幹事の筆頭年次に当ったことから、八月二十五日秋高同窓会総会の日時に合せて、同期会を催すことにした。

昭和六年と言えば満州事変がぼっ発した年でもある。入学当時二百名余の同期の仲間も古希を過ぎた今日、物故者も百名を越す高齢者社会の一員となりつつある。白亜の校舎に入学してから奇しくも昭和十一年この校舎の最後の卒業生ともなった因縁深い同級生の仲間達であった。（この年はあの二・二六事件があった）昭和の激動の荒波をくぐり抜けてきた仲間達の年一度その健在を確め合い同期会のあと、秋高同窓会総会へ出席したのであるが、なんと最多出席のことで、塩田会長より賞讃のお言葉をいただき、幹事当番としての面目を果したことになった次第である。

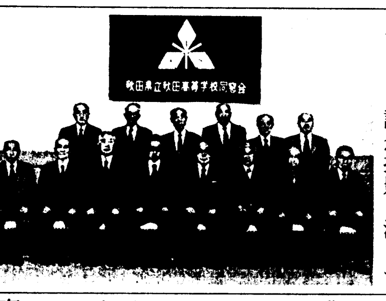
次の級友の集りを報告し他の同期会の発展を祈念してやまない。

佐藤民治・石田正・渡辺純一郎・高堂五郎・高田年郎・佐藤淳治郎・須貝作郎・信田昭・目黒武士男・水谷勝一・小川宇一郎・伊藤啓一・市川　稔・佐藤俊一・小野静男・菅生正雄・伊藤磐

事務局は秋田市寺内字蛭根三八～二四　伊藤　磐宅
TEL　二四－二五五一

秋田駅頭で和やかに交歓

秋中五十一期（昭和13年卒）の同期会は恒例の十月第三土曜日（十九日）に、秋田ターミナルホテル四階「ぶなの間」で開かれた。定刻四時までに元気な姿を見せた十四名は、お互いに久闊を喜びあい、校章旗をバックに記念撮影を済ませたあと、大槻幹事の司会進行で開会、まず同期物故者に対する黙祷を捧げた。つづいて菅原代表幹事から母校野球部の夏の甲子園出場に伴う協力に対する謝辞と、近づく創立百二十周年の記念事業への協賛依頼のことばがあり、大槻幹事から会務・会計報告があって型通りのセレモニーを終了。



森山勇一郎君の乾杯音頭で開宴にはいる。欠席者の近況報告なども披露され、綺麗どころのお酌でお酒も弾み、学生時代の武勇談や、戦争の思い出、果ては健康・趣味談議、孫の自慢話など話題は盡きない状況であった。

やがて準備しておいたテープで校歌・校友会歌・応援歌が流されると、期せずして全員が斉唱、しばし若き日の感懐に浸った。

七十の坂を越した面々として、無理をせず健康で来年の再会を約し、八時頃にはとっぷりと暮れた街に家路を急いでいった。

当日の出席者は次の通り。

安東誠、石田秀一、江見喜代彦、大槻家静、小松義一、柴田均一、進藤一雄、菅原繁雄、鈴木哲郎、髙安泰助、平野庫治、宮崎金一、森山勇一郎、横江剛一

秋中二〇四会

とき　平成3年10月25日
ところ　栄太楼旅館

北林照助氏が去る六月、県議会議長に就任・その祝賀を兼ねて、平成三年度同期会が、同期生三四名出席のもとに開かれた。祝賀会と云うので、東京・北海道在住の同期生からも祝電が寄せられた。会は一部―祝賀の挨拶・そして北林君から、議長就任の挨拶と、心境が語られた。秋高〇・Bの県議が十二人になったこと、しかしO・B国会議員は不在・また議長席に座って居ると視線を何処に向けるかで非常に苦労があり、眼が疲れる等々興味ある、挨拶であった。二部は秋中二〇四の会例会として母校同窓会の動きについて報告がなされた。

来る創立百二〇周年記念の募金活動では、他年次に比較して、恥しいことのないように、一同努力しようとの声もあった。今回は、東京から佐川悠三君がわざわざ出席されて、約半世紀ぶりの、ご対面を楽しんだ人も多数居った。その他佐々木銀一君もしばらく振りの出席と言うので、佐川君と共に、ご挨拶をお願いした。

以上の外に当日の出席者は

小柳・小柵木・工藤（敏）
神成・河田・金田・加賀谷・
石橋・石塚・石井・伸様隆・
渡辺作則
渡辺一大・山中・宮越道・
三浦義幸・三浦逸・松橋昭
吉・日野・野手・根本・手
塚・田村義春・竹内育・髙
松・髙橋晃二・進藤昭次・
庄司・平塚・近間

であった。次回を楽しみに散会す。

（山谷記）

昭和三七卒 首都圏同期会開催

首都圏在住の昭和37年3月秋高卒業生の同期会を次のように開催しました。

日時　平成3年10月18日
場所　東京、新橋第一ホテルアネックス

今度の同期会は、東京を始め近県から約30名の出席者がありました。中には遠く、秋田からの出席者もあり、また2名の女性の方の出席者もあり、大いに盛上がり、かつ色彩りを付けて下さいました。

秋の一夜、出席者は、高校時代の思い出や現況などに話の花を咲せ、一段と旧交を深め、談笑を楽しみました。

最後に、平成5年の秋高創立120周年記念への協力と、昭和37年3月卒業生の卒業30周年を記念して、明年、再び皆で集うことを約して、この殷賑な会を御開きに致しました。

旭南高砂堂
塚本三郎（S20.(4)卒）
塚本髙（S51卒）
本　店/秋田市旭南小学校通り　☎23－4021代
本荘店/本荘市由利中央線　☎23－3466
土崎店/土崎港中央通り　☎45－7204
からみでん店/千秋からみでん　☎31－7381
売店/木内デパート・秋田空港・ステーションデパート

街づくり新世紀 Maruei
専務取締役
高橋豊彦（S51卒）
株式会社 マルエイ
宅地建物取引業　秋田県知事(1)1424
〒010 秋田市中通6丁目6－15
TEL0188-35-8801　FAX0188-35-8801

安田火災海上保険㈱
東京支店長
松野　厚（S31卒）
（都）新宿区西新宿1-26-1
安田火災本社ビル内

伊藤胃腸内科医院
院長
伊藤　隆（S31卒）
由利郡象潟町荒屋妻109
TEL0184(43)4171

滑川医院
院長
滑川五郎（S31卒）
仙北郡中仙町長野九日町
TEL0187(56)3121

斎藤医院
院長
斎藤　彰（S31卒）
由利郡象潟町字家の後
TEL0184(43)3105

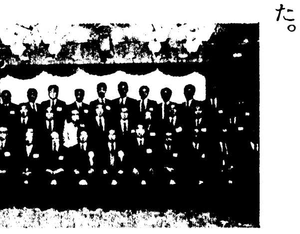
つどい

秋田営林局支部総会概要報告

平成3年度秋田営林局高校同窓会支部総会が、10月19日秋田市の弥高会館で開催され、2年度の事務報告・決算報告のあと3年度予算を決定しました。

10年前には、70名近くも在籍していた我が会も、新規採用者0に加え年々退職者が増え、現役は33名の会員となってしまいました。

総会後の懇親会には、来賓に塩田同窓会長、高橋教頭先生、営林局から西村総務部長をお招きして、OB・現役を合わせ総務34名の懇親会になりましたが、OBと現役が合同して新しい形で同窓会支部を運営していくことが総会で決議されたこともあり、例年以上に雰囲気が盛り上がり、最後に校歌を斉唱して散会しました。



［新役員］

会長　佐藤　昭（昭和35年卒）
副会長　加藤　弘（昭和27年卒）
〃　越前　栄二（昭和28年卒）
事務局長　吹浦　忠充（昭和33年卒）

卒業三十周年

S36会卒業30周年を記念

卒業30周年を記念した、36年卒業同期会が、十一月二日に秋田市で開かれた。

当日はまず、十時から母校にて、どん帳袖幕の贈呈式に引続き、全校生徒、同窓生を前に、湊昭策君の司会で、東大法学部教授の佐々木毅氏（ 期生）が「日本の政治の過去と未来」と題して講演を行った。「政治改革は政治家の品質管理の問題である」と論評、今売れっ子の政治家評論家の片鱗を見せた。日本の政治思想の流れ、氏が秋高生時代から政治に興味を持ち続け現在に至ったこと等、高校生に判り易すく感銘深い講演であった。

講演後、生徒との質疑応答があり、特に、「宮沢りエの総理と、宮沢喜一のヌードは、どちらが実現可能性があるか」という生徒の質問には、やんやの喝采が湧いた。

最後は小玉得太郎同窓会副会長から祝辞とコメントを頂いて締めくくった。

続いて五時から、秋田温泉郷さとみ温泉で開かれた卒業30周年同期会には、同窓会長、校長、恩師など十名の来賓の他、百十五名の同期生が参加して盛大に行われた。

坂本哲也君の司会のもと、物故者への黙とう、石川清治君の代表幹事報告、照井清司君の実行委員会長挨拶・室田弘校長・謝辞・塩田雄次同窓会長の祝辞のあと記念撮影を行い、恩師への花束贈呈の後、町田与太郎先生の乾杯で大懇談に移った。畑沢潤一先生他恩師の先生方の一言スピーチや、東京36会の長谷山律子君他遠路県外から駆けつけて久しぶりの方々の感動のスピーチが続き、級ごとにセットした席もいつの間にかくずれ、30年ぶりの顔を見つけて名刺交換をする光景があちこちに見られた。

会は同窓会百二十周年への力強い協力を誓い合い、校歌、校友会歌の斉唱で幕を閉じたが、一同さとみ温泉に泊り、夜を徹して旧交を温める者あり、川反に繰り出して、同日行われた北高あげまき会の36会30周年の流れの方々と、しめし合わせて(?)合流する者あり、夜の更けるのも忘れ肩を組み、杯を酌みかわす者あり、なごりの尽きない楽しい一日であった。

硬式野球部・柔道部活躍のあと

◆硬式野球

甲子園
26年ぶりベスト16進出

二回戦
秋田　4－3　北嵯峨
三回戦
秋田　3－4　大阪桐蔭

部長　神居　隆

この度の甲子園出場に際しましては、同窓の皆様方の暖かい御声援をいただきまして、まことにありがとうございました。県予選の一回戦から球場に足を運んで下さり、選手一人一人を熱い視線で見守っていただきました。最終回が終り、スタンドの皆様方の所へ挨拶に走り寄る度に熱いものが胸の内より沸き上がってきて、何よりの励みになりました。ブラウン管の前で応援していただいた方々へもこの思いが伝わってくれたものと信じております。

選手達は純真に一戦一戦を大事に、今日で終ることに悔いを残さぬ試合を心掛けて戦いました。そして見えない力に育てられ強くなり夏を駆け抜けました。短かい夏でしたが、野球部、そして秋高に何か新しい風が吹いたようで、「やればできる」が本当のところだなどと思い直して秋田に帰ってまいりました。

主将　佐藤　幸彦

甲子園に行こう、これが我々秋高野球部の目標であった。しかし、春先のチーム状態は最悪。これで勝てるのだろうか、という不安はあったが、甲子園という確固たる目標があったので、苦しい時も頑張れたと思う。

四月、六月の合宿を経て、チームは自信と意欲をもって夏の県予選に臨んだ。「一戦一戦、一球一球を大切に」というテーマをもって戦ったのがよい結果を生んだ最大の要因だと思う。そして、決勝では我々の目標の一つである「打倒経附」を果たし、優勝することができた。その時の嬉し涙は絶対忘れないだろう。

全力を尽くし、最高のプレーをしよう、という目標を持ち大阪入りした。公式練習、抽選会開会式と、すべての事が印象深く頭に残っている。

心配した暑さも、それほどではなく、皆体調万全で二回戦の北嵯峨戦に向かった。九回に追いつかれたものの、緊迫した試合でよく競り勝ったと思う。そして校歌を二十六年ぶりに歌えたのがうれしかった。

暑さも敵になった三回戦の大阪桐蔭では菅原の踏ん張りでまたも緊迫した競り合いとなった。勝ちは逃がしたものの最高の試合ができたと思っている。

二試合を通じて、自分達の実力以上のプレーを甲子園というものがさせてくれたような気がする。また一球の重み、というものもいやというほど味わった。

この大きすぎるほどの貴重な経験と教訓を忘れずに今後も努力を重ねていきたいと思う。

「鳥羽クラブ」から

「76年ぶり、秋田、京都勢に雪辱」という見出しで、八月十三日の朝日新聞関西版に、京都二中OBから、矢留クラブの前会長和賀政男に、祝電が寄せられた記事が掲載された。電文は「鳥羽、悲願ならず。不日、甲子園にて対戦を夢みる」で、秋田高校が出場を決めた日に打電された。奇しくも、京都北嵯峨との対戦で劇的な勝利を収めた瞬間、第一回で京都二中に敗れた昔日のことが鮮やかに浮び上ってきたに違いない。鳥羽クラブの大槻氏も和賀氏も、両校の絆が甲子園を通じて一段と深くなったと述べている。

◆柔道

インターハイ

軽重量級三位　安田大介

この度御陰様で、全国大会三位入賞することが出来ました。これも皆様方の暖かい応援があってこそ実現したものであり、本当に感謝しております。

自分としても上位入賞などということは意識せず、まずは予選リーグを突破し、決勝トーナメントに進出することだけを考え今回の大会に望みました。

決勝トーナメント一回戦の相手は奈良県正強高校。奈良県といえばレベルが高く、前日、天理高校が団体優勝を決めています。そういうこともあり、胸を借りるつもりで全力で終始攻め続け「優勢勝ち」することが出来ました。

しかし、世の中そんなにうまくはいかず、準決勝で無情にも主審の手は相手に上がりました。

進学校であり、勉強との両立に絶えず苦労をし続けた三年間ではありましたが、「やれば出来る」という気持ちを持ち続け、テーマを与えられ、それに最大限努力していったのが良い結果に結びついたものと思われます。

中学時代、全国・東北大会どころか全県大会にも出場出来ず、素質もない自分をここまで育ててくれた先生、並びに皆様方には本当に御世話になりました。これからも、我が校のモットー「文武両道」に一歩でも近づくべく努力していくつもりであります。

事務局だより

◆同窓会事務の効率化を図るため、事務局にFAXを入れました。番号は電話番号と同じく三二局九五五三番です。ご利用願います。

◆年次名簿委員と募金委員が決ってない年次があります。

早急に決定して、事務局までお知らせ下さい。

◆年次会費・役員会費未納の年次・役員の方は、取り急ぎ納入下さるようお願いいたします。

会務報告

▽だより三十五号で報告後の会務は次の通りであります。

7・15　会計監査
22　当番年次打合せ会
26　一二〇周年総務委員会
8・1　硬式野球部甲子園出場激励会
3　常任理事会・理事会
4　知道会員来秋懇談
10　四八年次同期会
14　四三年次同期会
16　男鹿支部総会
17　26年次卒業30周年記念同期会
20　同窓会だより第35号発行
25　通常総会
9・9　財政委員会
13　近畿支部総会
14　茨城県支部設立総会
　　25年次還暦記念同期会
19　広報委員会
27　一二〇周年施設委員会
10・12　一八会総会
18　札幌支部総会
19　営林局支部総会
27　追分三叉路会支部総会
27　西仙北支部総会
27　知道会総会
11・2　36年次同期会
11　一二〇周年名簿・募金合同委員会
18　湯沢雄勝支部総会
21　本荘・由利支部総会
25　一二〇周年行事委員会
28　一二〇周年校史委員会
30　岩手県支部設立総会

愛川医院
愛川重春（S20④卒）
秋田市仁井田蕗見町7－11
TEL 0188－39－2252

後条内科医院
後条永四郎（S20④卒）
秋田市牛島東7丁目4－17
TEL 0188－33－2006

相原定幸税理士事務所
税理士 相原定幸（S41卒）
税理士 三浦秀明（S56卒）
本荘市裏尾崎町13
TEL0184－21－5255

高級近海 鮮魚専門店
有限会社 川村鮮魚店
川村　忠（S41卒）
秋田市中通四丁目7番35号
秋田市民市場内（水産3号）
TEL 33－0720 35－8822　夜間32－4838

印刷機材の総合ディーラー
株式会社 佐藤商事
代表取締役 佐藤　博（S41卒）
〒010 秋田市大町
TEL(〇一八八)(62)
FAX(〇一八八)(62)

お菓子の
金月堂
鈴木元一（S41卒）
秋田市手形字西谷地293－2
TEL0188-32-6150
本金西武B1
TEL0188-35-5411

浴風会病院
院長 大友英一（S20④卒）
東京都多摩市桜ヶ丘4-29-1
TEL (0423)74-6658

産婦人科 眼科
並木クリニック
院長 並木岡一（S20④卒）
眼科 渡辺裕之
並木コンタクトレンズセンター
秋田市寺内堂ノ沢114-1
☎(0188)46－1231代

セレニット
SELEKNIT
小澤日出登（S41卒）
本社 〒010-03秋田県男鹿市脇本富永字野田5-5
TEL(0185)25-4308 FAX(0185)25-2322
入道崎 (0185)38-2854　東京事務所 03-3863-5911
天王 (0188)78-6585

時計・メガネ・宝石
コニシ
代表取締役専務 小西悠一（S41卒）
コニシ本店/秋田市中通2丁目6番1号（本金西武2F）
TEL(0188)32－6274(FAX兼用)

秋田保戸野郵便局
局長 鈴木一哉（S41卒）
〒010 秋田市保戸野中町七ノ四六
電話（〇一八八）(23)九六三

第一会館
常務取締役 中村健一（S41卒）
〒010 秋田市大町5丁目4－28
TEL 0188－64－1166